

地質多様性の保護と管理 欧州ジオパークネットワーク

Nickolas Zouros¹⁾

はじめに

私たちにはつい最近まで、「地質遺産」に対する国際的な認識がまったくなかった。しかし、地形や地層といった、私たちの星の進化や生命の歴史を見守ってきた地球上の遺産の評価を高めるには、国際的な枠組みが必要だという要請は強まってきた。これに応えるのが、ユネスコが支援するジオパークという構想である。ユネスコが定義するジオパークとは、十分な広さがあって地域経済や文化の発展に貢献でき、明瞭な境界で区切られた地域をいう。そこには世界的に重要な大小の地質遺産が数多く存在し、地質学的に特別重要な、あるいは珍しい、美しい露頭がなければならない。これらの地質遺産は、地域が経てきた地質学的な歴史を教えてくれる証人なのである。

ジオパーク構想のもとで地球遺産と地質の多様性を保護し、持続的開発を進めることは、1992年リオデジャネイロで開かれた国連環境開発会議(UNCED)で採択され、2002年ヨハネスブルグで再確認されたアジェンダ21(21世紀に向けた環境と開発のための科学アジェンダ)の目標にかなうことでもある。

土地ごとに異なる地質、地形、景観は、地球上のさまざまな社会や文明、文化に大きく影響を与えてきた。ジオパーク構想は、文化や社会経済の発展と自然環境保護が互いに影響しあってゆく可能性に光をあてることで、世界遺産条約(1972年)に新たな側面を加えることになる。

欧州ジオパークネットワーク(EGN)とは

欧州ジオパークネットワーク(EGN)は、2000年に欧州連合(EU)の支援とユネスコの協力で発足した。EGNの目的は、まず地元の地質遺産を利用したジオツアーやエコツアーを企画して、ジオパークに指定された地域の持続的発展を目指し、さらには地学的多様性を守り、社会のために地質遺産事業を進めるこ

とである。

EGNは2000年以降、ヨーロッパ全土でこうした共通の目的のもとジオパークを設立し、メンバーであるそれぞれのジオパークはこの目的に向けて積極的に手を取り合って活動を行っている。

当初4つのジオパークで発足したEGNは、2006年7月にはヨーロッパの11ヶ国30ヶ所に拡大した。EGNメンバーはメールなどで連絡を取り合い、会合を頻繁に開き、共同でプロジェクトを立ち上げて実施している。その中で各ジオパークは互いの意見や経験、成功例などを交換し、互いに助け合い、ジオパークの目標を実現しつつある。

ジオパークは「地質」を中心にして推進されているが、自然遺産や文化遺産などの活用も含めた包括的な地域振興も行っている。EGNメンバーのジオパークは、地域と一体となって活動を進めることが成功の鍵だと考えている。

ジオパーク活動として例えば次のようなことがある。特定のテーマをもつ博物館、案内所および公園などの運営、地質観察路(ガイド付、ガイドなし共)の設置、教育用プログラムやツアー、教材の開発、書籍やCDなどの出版、教育現場でのアウトリーチ活動、そして説明パネルやパンフレットなどを用いて観光分野や社会に地質遺産を大々的に宣伝することなどである。

EGNは、地質遺産やジオツアーに関する一般社会のイメージを高めることで、地域の経済発展に積極的役割を果たし得ると考えている。ジオパークは地質遺産を振興するだけでなく、地元企業と協力して新たな関連産業を生み出すきっかけとなる。したがって、ジオパークの整備計画を決めてそれを実施し、地域の自然遺産や地質遺産を有効に活用するためには、しっかりした基盤を持つ運営組織を造って、ジオパークの利害関係者間の調整をすることが必要である。

EGNは加盟ジオパークからの出資と、EU共通プロジェクトの資金を獲得することにより活動資金を得て

1) 欧州ジオパークネットワーク コーディネータ。
エーゲ大学地理学科応用地形環境地質研究室

キーワード: ヨーロッパ, ジオパーク, 開発, ジオツアー, 持続性

いる。EGNの組織は比較的単純で、ユネスコ、万国地質科学連合 (IUGS)、国際自然保護連合 (IUCN) の代表を含む11名からなる諮問委員会と、各加盟ジオパークから2名ずつの代表が参加する調整委員会で構成される。EGNに関する決定は調整委員会のみが行う。調整委員会で選出されたEGN正副調整委員長は、EGNがEU、ユネスコ、IUGS、IUCN、欧州評議会など他の国際機関と契約を締結する際に、ネットワークの代表者となる。

EGNは2001年にユネスコ地球科学部門と正式な合意を交わし、ユネスコは本ネットワークを承認した。2004年にはユネスコとの間でさらなる合意に署名し、EGNはユネスコ国際ジオパークネットワーク(GGN)の傘下で欧州のジオパークについて責任を負う組織となった。

EGNのメンバーとなったジオパークは、3年ごとにメンバー資格について再審査と評価を受ける。最初の再審査と評価は2004年に行われた。この手続きは、加盟ジオパークがその運営、施設、サービスすべてにおいて高レベルを維持するのに役立つ重要なEGNの機能である。

EGNは設立からまだ7年しか経過していないが、設立時の目標達成に向けて大きく進歩し続けており、地質学関係団体だけでなく、ヨーロッパ各地のさまざまな団体から注目されている。

欧州ジオパークネットワークの活動

加盟メンバー共通の活動は会合、宣伝材料の開発、出版、共通行事の開催など、数多い。

年次総会：EGN加盟ジオパークが集まる年次総会は公開で毎年召集され、開催は加盟国の持ち回りである。さまざまな会員が互いに知り合い、経験を交換し、新たなジオパークの特産品を企画し、将来の戦略を決めるための絶好の機会である。

共通行事の開催：2004年には第一回欧州ジオパーク週間を開催した。6月第一週に各ジオパークがいろいろなイベントを実施し、ジオツアー関連のアトラクションや活動を行った。これらイベントのプログラムはすべてのジオパークで入手できるようにした。

広報活動：以下のように、ウェブサイトの整備、雑誌、出版物の発行、ジオパーク情報窓口の設置をEGNで行っており、加盟各ジオパークの宣伝・紹介も行っている。

EGNのウェブサイト：本ウェブサイト(www.europen-geoparks.org)は、ヨーロッパの全ジオパークのウェブ

サイトにリンクしており、それぞれのサービスやジオツアーを知ることができる。本サイトはネットワーク調整委員会が運営している。

EGNの機関誌：機関誌「欧州ジオパーク」は年一回発行され、ネットワークの活動やジオツアー、地質遺産の保存や保護、ジオパークにおける教育活動などの記事が掲載されている。また、各ジオパークの紹介などもある。

EGNの情報窓口：各ジオパークには利用者向けの情報窓口が設けられ、ネットワークや加盟ジオパークに共通する活動の情報を提供している。そこにはジオツアー関連グッズ(置物、書籍、パンフレット、科学教材など)のほか、各ジオパークが行っているヨーロッパの地質遺産に関する保護活動と広報活動、ジオパークでのジオツアーや教育活動、ジオパークで行える活動とそのための設備について説明がある。

共同出版：各国の言葉で書かれたパンフレット、ポスター、ステッカー、カレンダー、絵葉書セットなどを出版しており、加盟ジオパークの活動とEGNの活動について紹介している。

教材：加盟ジオパークの多くが独自で教育用材料の作成や出版を行っているが、EGNでも共通の教材作成を検討している。こうした共通の教材は確実に必要で、ジオパーク同士が協力して教育活動を行う際にも役立つに違いない。各ジオパークのプロジェクトリーダーの力を借りて、近いうちに共通の科学教材を作るべきだという提案もなされている。

日本語訳は宮野素美子(地質調査情報センター)と渡辺真人(地質情報研究部門)によって行われた。

参考文献

- Zouros, N. (2004) : The European Geoparks Network: Geological heritage protection and local development. *Episodes*, 27/3, 165-171.
- Zouros, N. (2005) : Assessment, protection and promotion of geomorphological and geological sites in the Aegean area, Greece. *Geomorphologie: relief, processus, environnement*, no3, p.227-234.
- Zouros, N., Martini, G. and Frey, M.L. Eds (2003) : *Proceedings of the 2nd European Geoparks Network Meeting*. Lesvos 3-7 October 2001, p. 184.
- Mc Keever, P. and Zouros, N. (2005) : Geoparks: Celebrating earth heritage, sustaining local communities. *Episodes* vol. 28, No 4, p. 274-278.

NICKOLAS Zouros (2007) : GEODIVERSITY PROTECTION AND MANAGEMENT THE EUROPEAN GEOPARKS NETWORK.

<受付：2007年4月2日>